ISSN 1880-585X

sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第15号
仙台市博物館
市史編さん室

『陸奥国図』（臼杵市教育委員会蔵）
上:全体、右:仙台藩領部分の拡大

せんだい 今 昔

仙台藩領、最古の絵図 寛永の巡見使絵図

江戸幕府は、「国絵図」を主要大名に作らせました。海や山、川や湖沼等の自然地形、街道、村、郡境などを同じ基準で描かせたものです。国単位で作るのが原則ですが、仙台藩が含まれる陸奥国は広大なため、幾つかに分割して絵図が作られました。

仙台藩領を描いた国絵図は、正保、元禄、天保の３種類があります。このなかで最も古い正保の国絵図は、正保２年（1645）頃に作られたものです。原本は残っていませんが、元禄の国絵図を作る際に作られた精巧な写しが現存しています。仙台市博物館に展示されているあの大きな絵図で、『仙台市史　資料編２　近世１　藩政』にこの絵図の複製を付録としていますのでご覧になってみてはいかがでしょうか。

ところが近年、正保の国絵図よりも古い仙台藩領全体を描いた絵図が見つかりました。

寛永10年（1633）、幕府は全国の様子を調べるために、巡見使を一斉に全国へ派遣しました。巡見使たちは、派遣された地域の実情を調べるとともに、国ごとに絵図を作成し、幕府に報告しています。これが寛永の「巡見使絵図」と呼ばれているもので、最近、この巡見使絵図が全国各地に残されていることが分かってきました。

寛永の巡見使絵図には、国絵図と同じように、川や街道が描かれ、村や宿駅の地名が記されています。たとえば、仙台から塩竈に向かう街道に「今市」という宿駅が見えます。今市（宮城野区岩切字今市）の宿駅は、元和年間（1615～1623）にこの地を開拓した兵藤大隅によって作られたという古文書が残っていますが、正保以降の国絵図には描かれていませんでした。しかし、この絵図によって、寛永10年頃までは宿駅があったことが確認できます。

また、名取川と阿武隈川の間の海岸線には島のような描写があります。これは島ではなく、海岸線の内側に作られた木曳堀（こびきぼり）と呼ばれる運河を描いたものと思われます。木曳堀は正保の国絵図にも描かれていますが、その成立時期がさらに遡ることがこれによって確認できます。

気になるのは仙台城下の東に大きな寺社のような建物が描かれていることです。これはいったい、何を表現したのでしょうか？

寛永の巡見使絵図は正保の国絵図などに比べれば、描き方に未熟な部分も多く見られますが、このような興味深い描写も数多く見られ、江戸時代初期の様子を伝える歴史資料として非常に重要なものということができるでしょう。

仙台の歴史を見つめてきた古木たち

大きな木を目にしたとき、人は何を思うのでしょうか。
ひとときの憩いの場として、地域のランドマークとして、神が宿るものとして…。
木々もまた、刻々と変わりゆく人の世を何百年も見守り、
今年もまた静かに春の訪れを待ち続けています。
ここでは市内各区の最古の木を紹介し、
その歴史に刻まれたさまざまな物語をひもといてみます。

①樹高　②推定樹齢　③所在地

瞑想（めいそう）の松

①14.5m　②620年　③青葉区小松島四丁目4-1

文豪瞑想の場

『滝口入道』で名高い明治の文豪高山樗牛（ちょぎゅう）が、旧制第二高等学校在学時にこの木の下で物思いにふけった場所として知られ、いつしか瞑想の松といわれるようになりました。元々この場所は榴岡天満宮の前身である小田原天神社があったとされ、天神社を信仰していた国分氏が霊地をけがさぬための記念としてこの松を植えたといわれています。小田原天神社は、中世には多くの塔頭（たっちゅう）や末寺（まつじ）を抱えた大きな神社であったようです。また仙台城築城の際に境内の木を建材として使ったという記録も残されています。

小田原天神社については…
『通史編3　近世1』p.63

鷲倉神社（わしのくら）のうばすぎ

①38.8mm　②500年　③泉区福岡字小山117

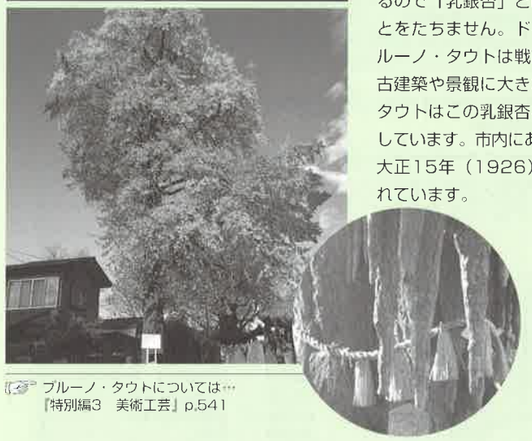
鎮守の杜の大木

鷲倉神社は、古来より山そのものがご神体として信仰を集めてきました。境内脇に立つこの杉は平成10年（1998）に県の天然記念物に指定されています。また山頂や山麓には鎌倉時代に立てられた板碑が残っており、古くからの霊地であったことを示しています。

鷲倉神社の板碑については…
『特別編5　板碑』p.4～5

銀杏（いちょう）町のいちょう

①32.0m　②1200年　③宮城野区銀杏町7-26



タウトの見たいちょう

たくさんの気根が乳房のように垂れ下がっているので「乳銀杏」と呼ばれ、願かけをする人があとをたちません。ドイツの建築家として著名なブルーノ・タウトは戦前に仙台を訪れ、仙台周辺の古建築や景観に大きな感銘を受けたといいます。タウトはこの乳銀杏を見て印象的なスケッチを残しています。市内にある銀杏のうちで最大であり、大正15年（1926）に国の天然記念物に指定されています。

ブルーノ・タウトについては…
『特別編3　美術工芸』p.541

柳生（やなぎう）のかや

①13.0m　②1300年　③太白区柳生二丁目6-1

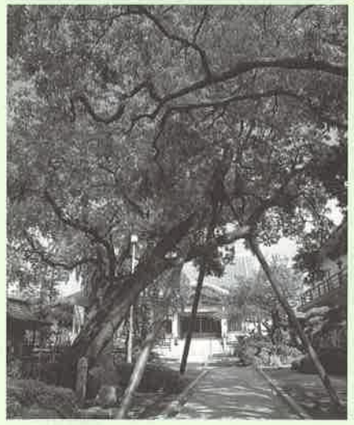
頼朝軍の足跡と古木

仙台市内で最古の木といえば、1300年の樹齢を誇る柳生にあるかやの木が挙げられます。源頼朝が平泉の藤原氏を攻めるために柳生付近を通った際、この木に馬をつないだという伝承が残っています。この場所は中世の街道が通っていたと伝えられ、付近には八日市場という地名もあることから市場が立つような場所でした。また柳生には鎌倉時代から南北朝時代の板碑が今も多く残っており、当時の様子を彷彿とさせます。

源頼朝の奥州攻めについては…
『通史編2　古代中世』p.206

栽松院（さいしょういん）のしらかし

①7.0m　②1000年　③若林区連坊一丁目3-18



政宗の思慕、はるか東へ

新寺から連坊の辺りは小高い地形のため、仙台城下をつくる際にそうした特徴をいかしてこの地が寺町になりました。政宗は仙台城から東を眺め空高くそびえるかしの木を気に入ったといい、そこに祖母・栽松院（伊達晴宗正室）の菩提寺を建立しました。この一帯は八塚（やつづか）とも呼ばれ、江戸時代に寺町ができる以前から古い塚が散在し、古くからの信仰の場であったとも考えられています。

寺町の形成については…
『通史編4　近世2』p.225

保存樹木は「杜の都の環境をつくる条例」（昭和48年3月仙台市条例第2号）で定められており、これに基づき現在は181本が指定・管理されています。

参考文献　『杜の都の名木・古木』（仙台市建設局、平成17年発行）

施設探訪

社会福祉法人共生福祉会
福島美術館

仙台市史で使いたい写真や資料が博物館にないとき、必要なものはよそからお借りします。また、資料が見つかれば調査に出かけたりもします。このコーナーでは、市史編さん事業の過程で訪れた施設をご紹介します。

静かな街並みの一角にある福島美術館は昭和55年（1980）に社会福祉法人共生福祉会館（ライフセンター）内に開館しました。「福島美術館」と称するのは、障害者のために施設を設けた共生福祉会の設立者・故福島禎蔵氏が同家三代にわたって収集した約三千点の品を寄贈したことに由来します。仙台藩政時代から昭和戦前までの美術品・工芸品・古文書など、歴史的にも美術的にも価値のあるものをじっくり観ることができます。

「葡萄図」　伊達宗村筆　江戸時代中期

平成18年新春展のご案内

「めでた掛け－福はウチ！－」

公開期間／平成18年1月5日（木）～2月28日（火）

社会福祉法人共生福祉会　福島美術館
宮城県仙台市若林区土樋288－2
TEL：022－266－1535

見学は公開期間中のみとなります
- 春季展　4月～6月
- 秋季展　9月～11月
- 新春展　1月～2月

休館日／公開期間中の毎月第一日曜日、毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始
開館時間／9:00～16:30
入館料

	個人	団体（20名以上）
一般	300円	200円
学生	200円	100円

※高校生以下、70歳以上、障害者は無料
※障害者1名につき付き添い者1名は無料
※学生は学生証の提示により割引します
※特別料金は別途設けます

モノがたり仙台

『柳生和紙』

やわらかくて強い和紙は、日本人が国産の楮・三椏・雁皮・麻・桑などの植物を原料にして伝統的な技法で作り上げた紙です。明治時代以降、洋紙の機械が導入され大量生産されると、徐々に衰退していきました。仙台市内ではわずかに太白区柳生地区でその伝統が残されているだけです。

江戸時代の仙台領内の産物を記した『封内土産考』や『奥羽観蹟聞老志』には、紙の産地として刈田郡・伊具郡・磐井郡東山と並んで、名取郡前田・柳生・熊野堂・大野田の近辺を挙げています。現在も引き続き製作しているところもありますが、多くはすでに廃れてしまっています。

名取から産出される紙を「柳生紙」といい、なかでも懐中に携えて使う鼻紙は品質が良かったようです。『奥羽観蹟聞老志』には「国主が用いるものであり、作りは料紙に似て精好である。鼻紙の種類は五十枚、三十枚折、塵置、数無などがある。その雅なことは、野州宇都宮・常州水戸産の品に及ばないとしても和州（大和国）吉野産とおなじである。名取郡茂庭村産は上等であり、同郡の柳生製品はこれに次ぐ」と記されています。

慶応3年（1867）、名取郡柳生に河原町の商人小西利兵衛の頌徳碑が建てられました。現在は柳生寺境内に建つこの碑によって、当時、この地方で紙生産が盛んに行われていたことを知ることができます。彼は文政年間（1818～1830）に雨に耐える唐傘紙（厚美濃）、天保年間（1830～1844）に髪を束ねる元結紙（染美濃）の製造に成功しました。それを称える碑には、柳生村8人、吉田村・熊野堂村・中田村・長町・下河原町の紙中揚18人の名前と、柳生村25人・根岸村鹿野4人の紙漉の名前が記されています。

柳生地区は近年、急速に開発が進み、田園地帯の風景が失われつつあります。そのなかで柳生和紙作りの技術を伝える家が1軒残っています。和紙は丁寧な工程と厳しい労働の結晶であり、この貴重な伝統ある紙作りを地域の人々が支援しています。郷土のまつり七夕をはじめとして、身近に親しまれる紙として用途を広げ愛用されることを願って。

柳生和紙を使用したランプシェード（仙台市立太白小学校「スクール発明王コンテスト」出品作品より）
写真提供:東北経済産業局

☞ 柳生和紙については『通史編5　近世3』で取り上げております。

おねがい　市史編さん室では、仙台の歴史にかかわる資料を探しています。よりよい仙台市史を作るためにはより多くの資料が必要です。皆さまのお宅に古い文書や写真などございましたら、ぜひ編さん室までお知らせください。　TEL 022-225-3074

仙台の歴史を完全収録　好評発売中

宮城県内主要書店、仙台市博物館2階売店でお求めになれます。
配送をご希望の方は、電話・FAXで（株）宮城県教科書供給所へお申し込みください。

発売元　（株）宮城県教科書供給所
〒983-0034
仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL:022-235-7181
FAX:022-235-7183

お問い合わせ先
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
TEL:022-225-3074

続刊予定
◎通史編／近代1～2・現代1～2
◎資料編／近代現代4・伊達政宗文書4・仙台藩の文学芸能
◎特別編／城館・慶長遣欧使節

【通史編１】原始
【通史編２】古代中世
【通史編３】近世1
【通史編４】近世2
【通史編５】近世3
【資料編１】古代中世
【資料編２】近世1　藩政
【資料編３】近世2　城下町
【資料編４】近世3　村落
【資料編５】近代現代1　交通建設
【資料編６】近代現代2　産業経済
【資料編７】近代現代3　社会生活
【資料編11】伊達政宗文書2
【資料編12】伊達政宗文書3
【特別編１】自然
【特別編２】考古資料
【特別編３】美術工芸
【特別編４】市民生活
【特別編５】板碑
【特別編６】民俗

通史編　3,000円(本体2,858円)
資料編　4,000円(本体3,810円)
特別編　6,000円(本体5,715円)
※板碑のみ 5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます

【通史編１】原始は改訂版とセット販売となります
【資料編10】伊達政宗文書1は完売しました

「市史せんだい」Vol.15のお知らせ

昨年度の市史編さん事業を報告するとともに、研究成果をいち早く紹介する市史編さん室の機関誌『市史せんだい』の最新号が発売となりました。

今回の特集は「仙台の合併史」で、昭和31年の生出村との合併や、実現せずに終わった昭和40年代初めの「仙塩合併」を中心とした座談会のほか、仙台の合併に関する論文や史料紹介を掲載しています。

そのほか、仙台城下の民衆の生活に関する論文や但馬伊達氏関係文書なども紹介しています。

『市史せんだい』は仙台市博物館2階売店でお求めください。

A4判・128ページ …… 価格800円（税込）

『通史編1　原始　旧石器時代』〔改訂版〕の刊行について

旧石器遺跡発掘ねつ造事件をうけて改訂版を刊行しました。ご購入いただいた元版を博物館の「市史改訂版」係まで送料着払いでお送りいただくか、直接お持ちください。お届けいただいた元版に改訂版を添えてお返しいたします。詳しくは市史編さん室までお尋ねください。

せんだい市史通信 第15号

発行年月日／平成18年1月31日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内26番地＜仙台城三の丸跡＞
TEL／022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum

R100
古紙パルプ配合率100%白色度85%再生紙を使用しています